2. 岡山大学医学生のミャンマー訪問について

1） 訪問概要：

日程：　2015 年 1 月 13 日（火）～15 日（木）

参加学生：川尻智香（医学部 5 年生）

木股由貴（医学部 1 年生）

他参加者：岡田名誉教授、永山先生、木股教授、斉藤先生（疫学衛生学分野）、坂口

訪問場所：ヤンゴン第一医科大学、MGH クリニック、西山堅クリニック（母子センター・宿舎）、マハウェイアーヤ僧院（八田クリニック建設現場）、Dent. Myanmar Dental Centre、新ヤンゴン総合病院（JICA 病院）

2） 訪問詳細：

2015 年 1 月 13 日（火）

ヤンゴン第一医科大学

形成外科 Moe Thuzar 教授の取り計らいで、大学見学の前に、学長である Thet Khaing Win 先生と面談した。（参加：岡田名誉教授、木股教授、斉藤先生、川尻さん、木股さん、坂口）それぞれの自己紹介後、木股先生より、岡山大学とミャンマーの医学交流に関連する以下の事項が説明された。

1. 2015 年度の国費留学生受入のミャンマー枠について
2. 国費留学生優先配置プログラムに申請中（1 月現在）の屋根瓦方式医療人材育成プログラムについて
3. 岡山大学医学部 3 回生とミャンマー医学生の 3 ヶ月間の交換留学プログラムの提案について
(岡田先生が補足で、NPO が宿泊施設と生活費の奨学金を負担する旨を伝えた)

Thet Khaing Win 学長より、2015 年度国費留学生については、公衆衛生と法医学分野の研修が必要であること、そして早速教員と相談し、早急に学生の選出を行うと回答をいただいた。また、国費留学生優先配置プログラムについても積極的な協力が得られそうであった。さらに、学生交流プログラム実現の可能性についても前向きに検討するという回答をいただいた。詳細については、同日夜の学生交流食事会にて、第二医科大学学長を交えて話し合うこととなった。

（写真左：ヤンゴン第一医科大学のランマドーキャンパスにて　右：Thet Khain Win 学長と）

面談の後、川尻さん、木股さん、斉藤先生と坂口の 4 名で、第一医科大学出身の Ye Than 先生に同行していただき、キャンパスを案内していただくことになった。ヤンゴン第一医科大学

には、3 つのキャンパス（メインキャンパスである Lanmadaw キャンパス、Pyay Road キャンパスと Thaton Road キャンパス）がある。少し離れた場所にある Pyay Road キャンパスを訪問した。ここでは、医学部 1 回生が、授業を受けており、科目は、ミャンマー語、英語、数学・統計学、化学、物理、動物学と植物学を学ぶとのことであった。まず、3 つある大講義室の 1 つ目の講義室での授業を見学した。教材および授業のスライドは全て英語表記だが、授業自体はミャンマー語で行われていた。また、教壇に立つ講師の他、およそ 125 名の学生に 10 名ほどの指導員が教室を回り学生の学習状況を確認する。2 つ目の大講義室には、175 名ほどの学生が授業の準備をしていた。その後、実験・実習室を回り、岡山大学からの学生 2 名は積極的に、授業の教科書やノートを見せてもらったり、ミャンマーの学生と一緒に顕微鏡をのぞいたりしていた。その他、副学長である Theingi Mynt 先生（解剖学）および、副学籍登録官である Sanda Hlaing 先生（物理学）と簡単な面会をした。

（写真左：大講義室での授業の様子　右：実習室にて）

ミャンマー医学生との交流食事会

ヤンゴン第一医科大学訪問後の夜、ミャンマーの医学生との交流食事会が開かれた。ミャンマー側の参加者は、ヤンゴン第一大学の医学生 4 名（1 年生 2 名と 2 年生 2 名）とヤンゴン第二医科大学より 3 名（5 年生 2 名と 3 年生 1 名）が参加した。当初は、学生たちがどのように交流するのか、また積極的に情報交換などできるかどうかが懸念されたが、会の始めから双方の学生が、お互いに積極的に質問し、意見交換を行っていた。また、会が進むにつれ会話がとても盛り上がっているようであった。会の終わり頃には、ミャンマーの学生たちが贈り物を準備してくださっていて、一人ずつ贈呈式が行われた。記念写真を撮ったり、今後も継続した交流を約束したりと、今回の食事会で交流が深まったようであった。

一方、学生たちの反対側のテーブルの端では、岡山大学とミャンマーの医療協力の今後についての話し合いが行われた。ヤンゴン第一医科大学の Thet Khaing Win 学長、ヤンゴン第二医科大学の Zaw Wai Soe 学長、そして医学研究局(上ミャンマー)のネイウィン先生が岡田名誉教授、木股教授と共に下記について話し合いをした。

1. 2015 年度の国費留学生受入のミャンマー枠について
   第一医科大学学長より公衆衛生学と法医学、また、第二医科大学学長より臨床工学技師について要望有。分野については、期限までに両大学長で話し合いをしてもらう。
2. 国費優先配置プログラムに申請中の屋根瓦方式医療人材育成プログラムについて
   （2015 年 2 月 10 日時点で、「不採択」の結果となったため保留）
3. 岡山大学医学生とミャンマー医学生の交換留学プログラムの今後の可能性について

4. 2015 年 3 月に岡山大学グローバルパートナーズより、新たなミャンマー国費留学生枠を申請するため、候補分野をあげてもらいたい旨を伝えた。両学長より、薬剤師、生理学者、放射線技師や、特に臨床工学技師などの技術者が不足しているため、必要であると回答をいただいた。

（写真上左: Zaw Wai Soe 学長の挨拶　中：学生の交流風景　右: ミャンマー医学生からの贈り物贈呈　下: 学生集合写真）

2015 年 1 月 14 日（水）

参加者：岡田先生、永山先生、木股先生、斉藤先生、川尻さん、木股さん、坂口

MGH クリニック "MGH Clinic"

まず、ヤンゴン郊外にある MGH クリニックを訪問した。このクリニックは、永山久夫先生が社長を勤める MGH 岡山より寄贈され、2014 年 10 月 9 日に開所式を行った。同クリニックには、岡山大学より同クリニックに寄付された歯科用診療椅子 2 台がある。このうち 1 台はいずれ現在建設中の八田クリニックに設置されるとのことであった。ここには、公立病院も隣接されており、NGO クリニックと医師が午前と午後のシフト制にて診察を行っている。歯科の検診は無料で行う予定であり、派遣医師が決定し次第、開所する（2015 年 2 月予定）とのことである。

（写真：MGH クリニック正面）

西山堅クリニック（母子センターと宿舎）"Nishiyama Katashi Maternity Center & Dormitory"

次に、「西山堅クリニック（母子センター）」を訪問した。訪問時には、5 名の実習生が、

助産師を目指し実習を受けていた。昨年 10 月に贈呈式を終えた「西山堅宿舎」には、6 部屋あり、1 人部屋が四部屋と 3 人部屋が二部屋の計六部屋ある。1 人部屋には教員が滞在し、共同部屋には実習生が滞在する。母子センターでの実習生グループの滞在期間は 2~3 週間である。2 年間で 20 名の出産介助を経験した後、彼女たちはミャンマー政府によってそれぞれ民族毎の地域へ派遣され、約 2 年毎に移動があるとのことである。岡山大学学生 2 名は、熱心に実習生に質問をし、交流を深めた。

(写真上：クリニック前にて出迎え　下左：助産実習生との交流　下右：宿舎前での集合写真)

マハウェイアーヤ僧院 "Maha Wei Har Ya Monastery"・八田クリニック(建設現場)

現在、八田クリニックを隣接予定であるマハウェイアーヤ僧院（北ダゴン 48 区）を訪問した。ここでは、インドにて仏教学博士号を取得した、Dr. Ahshin Mu Ni Ka が、寺子屋形式にて子供たちに勉強を教えている。訪問時、僧院には 5 名の子供たちが修行していた。八田クリニックは、2 階建ての建物になる予定で、1 階では予防注射などを行うヘルスセンターや高齢者のためのデイケアを運営し、2 階では子供たちが学べる寺子屋にする予定である。目的としては、教育と医療の両方の福祉を行える一般の人々のための特別な施設である。正式英語名は、"Hatta Special Clinic and Education Center for Ordinary People"となった。2015 年 2 月 23 日（月）に開所式が行われる予定である。

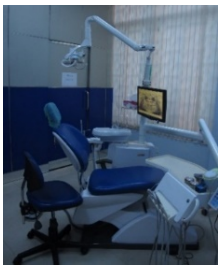
(写真上：建設中の八田クリニック　下：完成予定図)

僧院では、岡山大学医学生 2 名が、訪問前から他の学生たちに働きかけて集めたノートや鉛筆など、文房具一式を寄付した。また、岡山大学医学部 5 回生の川尻智香さんが、今後もこのような支援を続けたい旨を伝え、Dr. Ahshin Mu Ni Ka にご快諾いただいた。その後、修行僧の子供たちに僧院での修行や暮らしについて質問をして、交流した。

(写真：文房具の贈呈)

Dent. Myanmar Dental Centre

ミャンマーでの口腔癌集団検診プロジェクトのミャンマー側カウンターパートの一人である Moe Thida Htwe 先生の勤務するヤンゴン市内の民間の歯科クリニックを訪問した。ヤンゴン市内在住の日本人もよく利用するとのことであった。それぞれの診察室が個別に分かれており、小児専用の診察室もあった。さらに、日本の歯科でもあまり置いていないような最新の歯科治療用器具もあるとのことで、設備が整っていた。見学の他に、前ミャンマー歯科医師会会長であり、日本への留



学経験もある Ba Myint 先生と面談をした。

2015 年 1 月 15 日（木）

新ヤンゴン総合病院（JICA 病院）

イェタン先生の案内で、JICA 病院として親しまれている新ヤンゴン総合病院を訪問した。（参加：川尻さん、木股さん、斉藤先生、坂口）この病院はヤンゴン第一医科大学の教育病院の一つであり、病院内は多くの研修医の姿が見受けられた。まず、総合内科の Zaw Lynn Aung 教授と面談をした。面談では、ミャンマーの医療状況などについて教えていただいた。話の概要としては、現在のミャンマーでは、公立病院での診療費は基本的に無料であるが、精密検査や先進治療が必要な患者は、薬代も含め、患者の医療費の負担が発生する。医療費が払えない低所得者に対しては、病院で補助金等が受けられることもあるというが、基本的に医療費の 80～90%は患者が負担しなければならない。また、ミャンマーでの都市部と地方の医療体制の格差が問題であり、地方では医療を受けられる機会が限られている。限られた地域では、近代医学療法に加えて、現在でも特定の治療法をもたない伝統的医学療法も行われているといったことなど、わかりやすく説明をしていただいた。学生からの質問も受けてくださり、医師としての信念について聞かれると、貧困により医療を受けられない人たちに医療を提供したいという思いより、医師になったと言われていた。教授自身、15 年ほど、地方の貧困地域にて勤務した経験があるとのことで、貧しい人々が多い医療過疎地域での医療提供の機会を増やすことが課題であるとも言われた。長年の地域での勤務を経て、この病院へきた理由は、この病院が教育病院であることから、自分の経験を生かして若い医師の教育に貢献したいという気持ちからであるとのことだった。

（写真:Zaw Lynn Aung 教授と）

面談後、学生を一般総合内科の回診に同行させていただき、それぞれの患者様の病状について、学生への質問も交えて詳しく説明をしていただいた。一般総合内科のフロアでは、男性病棟と女性病棟が分かれており、それぞれの病棟内に、ガラスの壁とドアで仕切られた感染症患者のセクション、要高度看護患者のセクションと一般患者のセクションに分かれていた。教授は、感染症患者の部屋は他の患者との部屋と仕切られてはいるが、隔離はされていないということを強調されていた。病院内の設備も簡単に案内していただき、日本より寄贈された医療機器など（例：Infusion Pump）を見せていただいた。古い機械でも、今でも大切に使用しているとのことであった。教授回診の後、一般病棟や集中治療室(ICU)の見学もさせていただいた。他国の医療現場での教授回診への参加や見学という貴重な機会をいただき、学生達にとって、とても有意義な体験となった。

（写真：熱心に説明を聞く岡大医学生たち）

（報告日：2015.3.7）